

第 63 回北海道開発局空港技術研究会議の開催

北海道開発局 港湾空港部 空港・防災課

令和 8 年 2 月 20 日(金)、札幌第 1 合同庁舎 2 階講堂において、第 63 回北海道開発局空港技術研究会議が開催され、会場には空港管理者、建設・舗装会社、建設コンサルタントなど、道内外からおおよそ 30 名、WEB 参加者はおおよそ 60 名の方にご参加いただきました。

本研究会議は、昭和 37 年から継続して開催しており、最近の空港整備に係る技術動向や取組について、広範かつ多様な発表内容で構成しています。

第 63 回北海道開発局空港技術研究会議プログラム

発表件名	発表者
発表 1 丘珠空港機能強化に関する PI (パブリックインボルブメント) の取組紹介	北海道開発局 本局 港湾空港部 空港・防災課 水野 憲弥
発表 2 人工衛星を用いた漏水調査	株式会社 NAA ファシリティーズ 機械部 冷熱供給課 萩原 雅人
発表 3 運用時間中に UAV(ドローン) を用いた構造物点検の実施事例について	北海道エアポート株式会社 函館空港事業所 空港運用部 施設管理課 兼 総合企画本部 空港計画部 空港計画課 東島 良勲
発表 4 関西国際空港の護岸等における気候変動適応の取り組み	関西エアポート株式会社 基盤技術部 空港保全グループ アシスタントマネージャー 田中 大介
発表 5 東京国際空港における飛行場面点検	東京航空局 保安部 運用課 谷口 紗那

〈各団体の発表〉

最初の『丘珠空港機能強化に関する PI(パブリックインボルブメント)の取組紹介』では、北海道開発局で現在行っている丘珠空港の機能強化に関する PI 活動について、PI とはどのようなものから、これまで行ってきたオープンハウス型などの広報活動についてご紹介いただきました。

『人工衛星を用いた漏水調査』では、一般的な漏水調査に関する説明や、人工衛星という新技術を利用した漏水検知のメカニズムや調査事例の紹介をいただきました。また、今後の精度向上に向けた更なる取り組みについてもご説明いただきました。

『運用時間中に UAV(ドローン)を用いた構造物点検の実施事例について』では、函館空港の維持管理について、UAV(ドローン)の測量方法や測量により入手した 3 次元点群データの利用に関するメリット・デメリット

トなどご説明いただきました。さらに関係各所との調整フローなどより現場での細かい部分の内容についてもご説明いただきました。

『関西国際空港の護岸等における気候変動適応の取り組み』では、沈下が継続して起きている関西国際空港について、海上空港として護岸の嵩上げ時に考慮している気候変動適応に向けた取り組みや防災対策についてご紹介いただきました。

最後に『東京国際空港における飛行場面点検』では、航空機の走行が安全に行われるよう日々行われている滑走路などの点検に関して、動画などを用いてご紹介いただきました。



関西エアポート株式会社 基盤技術部
空港保全グループ アシスタントマネージャー 田中 大介様

今回の研究会議の発表内容は、北海道にはない海上空港ならではの台風・津波対策、気候変動に対する取組や、空港施設の維持管理における人工衛星や UAV (ドローン)などの新技術を用いた省力化・効率化といった関心の高い内容となっており、各発表後には活発な質疑が相次ぎ、有意義な研究会議となりました。

最後に、御多忙の中、本研究会議で発表していただきました皆様、並びに聴講いただいた皆様、改めて感謝申し上げます。



会場の様子